

第5回 NBSC 年次集会

2020年6月14日(日曜) 9:00～16:00

福岡国際会議場 4階小会議室

歯科治療を行うにあたって全てのケースにおいて肝に銘じておかなければならないことは、手をつけることによって現状より悪化させないこと。そして、自分の行っている行為を「医療」と呼びたいのであれば、QOL レベルを低下させないということが重要です。あたりまえのことなのですが、成長発育期の小児における矯正治療を見渡すと、総じて、意外なほどこれら『原則』が軽視されていると感じます。

上下顎の前後的な位置関係に重きをおくあまり、歯の挺出を容認しながら顔を長くし、下顎がスイングバックすることとで中咽頭径を小さくして、形態的な側面から呼吸の質を低下させているのです。

バイオブロック療法は、顎顔面領域の前方成長を促すことで、顔、呼吸、歯列を三位一体として好転させながら治療を進めていく矯正治療であり、胸を張って「医療を行っている」と誇ることができるでしょう。

今年は節目となる第5回目のNBSC年次集会です。期をまたいで皆で勉強しましょう。

NBSC 主宰 末竹 和彦

プログラム

8:30 開場

9:00～9:30 栗原 孝幸(4期生)

9:35～10:05 友岡 めぐみ(5期生)

10:10～10:40 友枝 圭(5期生)

10:50～12:20 馬場 悠男

国立科学博物館名誉研究員

【特別講演】「人類の進化と頭蓋構造の変化 ～睡眠時無呼吸症の究極要因を探して～」

12:20～12:50 ポスター発表 質疑応答

ポスター発表者・河村 太郎(3期生)

・寺崎 裕憲(3期生)

・岡本 直樹(4期生)

・奥野 勝也(4期生)

・小名川 良輔(4期生)

・藤本 慎子(4期生)

・迎 文彦(5期生)

ランチブレイク

14:00～14:30 副島 直博「ステージ3の下顎レジジン組み直しについて」

14:35～15:05 大安 努「バイオブロック療法の臨床的意義」

15:10～15:50 塚本 浩樹「バイオブロック治療をゴールに導くために」

15:50～16:00 質疑応答、総括